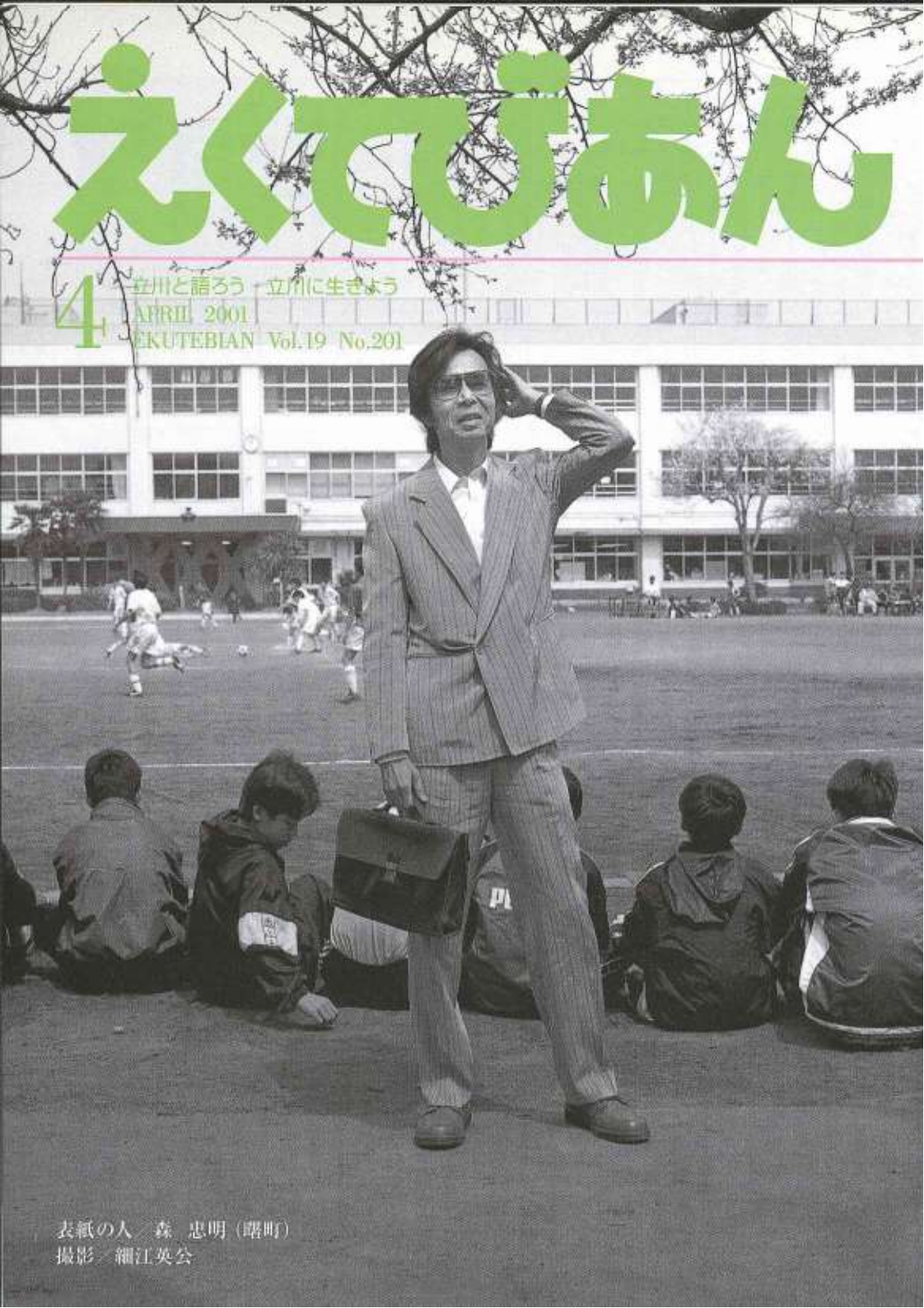
えくてびあん

4 立川と語ろう 立川に生きよう
APRIL 2001
EKUTEBIAN Vol.19 No.201

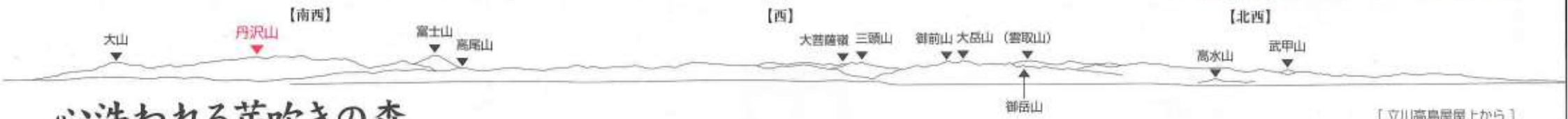


表紙の人／森 忠明（曙町）
撮影／細江英公

立川から見える山 ③

丹沢山（1567m）

案内人　守屋龍男



［立川高島屋屋上から］

心洗われる芽吹きの森

神奈川県北西部に広がる東西40km、南北20kmにも及ぶ広大な山域が丹沢山塊で、その盟主が丹沢山や蛭（ひる）ヶ岳（1673m）である。

幾百の峰々が連なり、山ひだを削るように深い谷や荒れた沢が複雑な地形をなしている。動植物も豊かで、特にブナはほぼ山塊全体に広がり、豊穣の森を形成している。丹沢を日本百名山の一つに挙げた故深田久弥（登山家、作家）が「個々の峰でなく全体としての立派さから選定した」としているのもうなづける。

初夏を思わせる一日、津久井側の宮ヶ瀬ダムを経て堂平のブナ林から丹沢山に登った。爽やかな風吹く中、賑やかな野鳥の声を聞きながら林道を歩く。2時間ほど行くと突然あたりはブナ林に変わった。目も覚める新緑に包まれた樹齢数百年の巨木がずっと向こうの尾根まで連なっている。おりから降り出した小雨に濡れた葉は一段と鮮やかさを増し、緑のシャワーを浴びているようだ。ここには今も悠久の時が流れ、幽玄な雰囲気が漂う。

尾根に這い登ると縦走路があり、シロヤシオの群落を眺めながら行くとほどなく丹沢山頂。残念ながら曇天のため眺望はないが、たまに切れる雲の間から、どこまでも続く丹沢山塊の青々とした山並みが見えた。周囲は鹿のせいか草が少なく裸地になっているところも。山域全体に鹿の被害が多いと聞く。

［行程］

車で神奈川県津久井町、宮ヶ瀬ダムを経由。中津川源流地点まで（1時間30分）→林道－2時間－林道終点－40分－堂平ブナ林－40分－天王寺尾根－1時間－丹沢山頂（往路を戻る）歩程約7時間。山頂から蛭ヶ岳、姫次、烏山経由で津久井町へ出るコース（帰路約5時間）などがあるが山小屋一泊が望ましい。一般的には、小田急渋沢駅＝バス15分＝大倉－3時間10分－塔ノ岳－1時間－丹沢山頂コース（往路を戻る）歩程7時間がある。

静まりかえったブナ原生林は下界の喧騒を忘れさせる。林道にはウツギ類などの花も彩りを添える。

私と丹沢

水泳や絵画の趣味に加えて山通いを始めたのは50歳代。自然の中で苦しさを乗り越えた後は爽快です。丹沢はどこから登っても懐が深く、山の楽しさ、厳しさを教えてくれます。

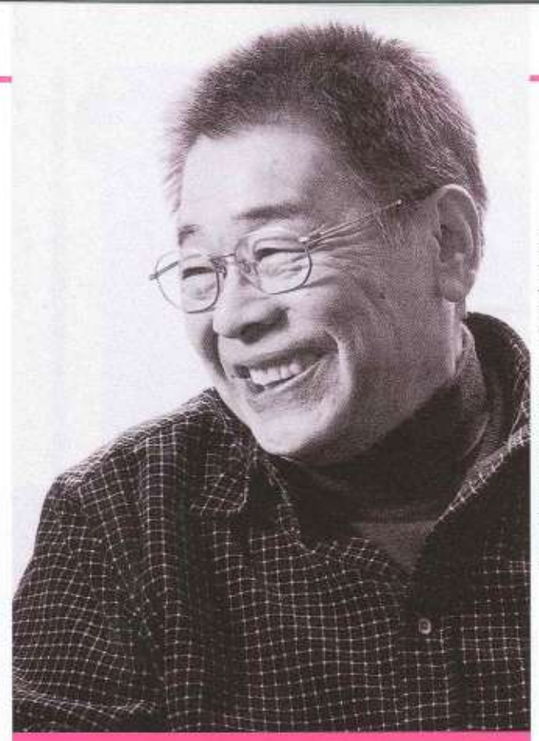
関　一男さん
（立川美術会代表・錦町）

ホンネde語ろう

あの頃、活版の「座り」がよかった

立川印刷所会長 鈴木闊郎さん

後編



■鈴木闊郎（すずきひろお）／昭和5年創業、立川で最も古い印刷所（立川印刷所・富士見町）の二代目会長。生っ粋の立川人。落語、歌舞伎等、趣味の世界への造詣は深く厚い。まさに粋を地でいく人。ボーイスカウト立川第七団の育成会長を勤め、地域の青少年の育成に並々ならぬ力を注いでいる他、東京立川ライオンズクラブに所属し、クリーン多摩川など、地域に密着した諸処の文化振興活動への支援、協力を行っている。平成14年の春には、地域住民の利便性を考慮し、立川印刷所敷地内に（仮称）立川富士見5郵便局の開局を予定している。

■立井啓介（たていけいすけ）／えくてびあん編集人。

啓介　印刷業とか編集という職種は、仕事＋αのものがないとやっていけないんじゃないでしょうかね。

鈴木　やはり、モノを創造していくということは、大きな気構えがなければならないはずだと私は思いますね。でも、段々とそういうのが希薄な時代になってしまっている。この位の要求だから、これで良いんだろうと製造業者の方でお客さまに甘えてしまっている向きはないですかね。「この位でいかがですか？」と業者が云うと、「それで良いよ」とお客さまが仰る。そういうことの連続だと、どんどんとレベルが下がるだけです。だから、今の印刷物というのは、七十五点平均で、美術書の複製などの特殊なものを除いたら百点というものはあまりないんじゃないでしょうか。昔は、印刷のカラー四色分解などということをやりましたね、レタッチマンがそれぞれ付いて、それこそ八十点でしかない原稿を百点にするっていうことが出来て、且つやったんですよ。だけど、今はそうした長いこと叩き上げた人間の力、技術というものを発揮する場所がない。全部、スキャナーなどの機械まかせで、技術者たちの活躍の場がなくなり、要求もされなくなった。こういうことが、印刷物の質の低下につながり、考え方のレベルがぐんと下がったところで良しとされがちになる。そんな風なことはありませんかね。

啓介　以前、闊郎さんの所では活版印刷をされてましたよね。立川印刷所のショールームには、活字を入れておくウマや活版印刷機が展示されている。

鈴木　活版印刷術は、十五世紀半ばにグーテンベルグが発明したとされていますよね。約五百五十年前に考え出された生産方式ですが、基本的には、近年までほとんど同じやり方で製造していた。でも今や、活版印刷をやっている印刷所は、非常に少なくなってきてますね。

啓介　出版社の岩波書店が、活版印刷の精興社とともに、一種のブックワールドを作ってきたにも関わらず、あの精興社までもが活版を辞めてしまった。作家や学者は、精興社の十ポイントの活字で岩波書店から本を出すのが生涯の夢だという時代があったと聞いていますけど、ああいうのは、ひとつの文化のような気がしますよね。今や、そういう精神的ステイタスがなくなりつつある。

鈴木　当時の若者たちは、岩波文庫が発売されるっていうと本屋さんの前に並んで買ったという話をよく聞きましたよね。私自身も岩波文庫には、云い知れぬ重みを感じてました。でも、今の時代、行列すると云えば、ゲームソフトか、携帯電話でしょうな（笑）。家の本箱にある岩波の文庫は、すっかり紙が赤茶けてしまって、それを改めて読むということもないんですけど、どうしても処分する気にならない。多分、夏目漱石先生だって、森鴎外先生だって、もう注釈付きでなければ私でも解らない部分が幾らでもあると思う。ほとんど源氏物語のような古典の域ですよ。そのうち、「吾輩は猫である」現代語版とかが出るんじゃないですかね（笑）。そういうのは、私なんか絶対に考えられないんだけど、果たして現代語に訳してどの程度、あの面白さが残るのか。多分、精神の問題に立ち入ったら全然ダメだと思いますけどね。

啓介　夏目漱石なら漱石調というトーンがあるでしょう。それを壊さずに訳すというのは、とても難しいんじゃないでしょうか。

鈴木　漱石流の一瀉千里って云いましょうか、相当に練り込まれた作品を訳すというのは不可能に近いと思いますね。だから、ああいう本は、やっぱり活版でなきゃどうもっていう感覚がありますね。

啓介　活版のあの押しの強さへの愛着っていうのは、日本人にはもうないんでしょうか。ある年代までででしょうかね。

鈴木　一定の年齢を経た人でないと判らないと思いますよ。あの押しの強さ、印刷したときのスミの色の艶やかさ、本を広げたときのあの匂い……。立派な出版社、一流の印刷所で刷ったものでも、押しが強すぎて裏へ出るというのがよくあったものですよ。そうするとやたらに落ち着いちゃったりなんかしてね、安心して読めたりする（笑）。

啓介　そうすると、闊郎さんがお持ちになっているそういった感性の印刷物がこの世の中から段々と消えつつあるということですかね。

鈴木　文章全体のフォルムとして、美しい、美しくないっていうのは絶対にある訳なんですよ。活版印刷の世界には、文選した活字を組み上げる植字工という人たちがいて、これが実に見事なバランス感覚を持っていたんですね。でも、印刷様式の変化によって写真植字が現われ、活版印刷が前近代的なものとなってしまった。でも、何と云いましょうか、写植だと文字のバランスがどうもうまくいかないんですよ。書式がちぐはぐになっちゃう。ところが植字工がやったら実にうまくいく、もう見事にぴったりとね。植字工は、そうした特殊技能を持っていましたね。活字を組んでいく技術に加え、文章全体から判断した座りの良い感じと云うんでしょうか……。ところが、写植のオペレーターはそれが出来なかった。ただ印字すれば良いと。だから、活版印刷がなくなりつつある今、そうした座りの良さっていうのがどんどん消えていってしまっていると思いますよ。

啓介　ところで、闊郎さんのお父さまは、随分と粋な方だったという話を伺ったことがあるんですが……。

鈴木　粋というのは、非常に難しい日本語だと思いますね。「粋なはからいしてる」とか、「粋だねぇ」ってのは、最近、ついぞ聞いたことがない。でも、「粋なはからい」っていう言葉がありますよね。粋っていうのは、寧ろ、形の面が先行して伝わってますけど、本来は、心の持ち方を意味しているんじゃないでしょうか。私の父親は、歌舞伎が好きで、新派劇が好きで、寄席が好きで、相撲が好きで、なんていうようなところのある人でしたから、小さい頃からそういう場に連れて行ってもらった。それが、今や私にとっては、実に良いことを色々見聞させてくれたと、非常に有り難い気持ちで一杯ですね。父親は、明治の生まれですけど、とにかく生きていく上での余裕って云いますかね、非常に大らかでした。多分、昔は、酒落だとか、粋とかいうものが、自然と普段の生活や意識の中に入り込んでいたんじゃないですかね。

啓介　きっとお父さまは、人生、何が大事かってことを知っておられた方じゃないでしょうか。そうしたお父さまの影響からか、闊郎さんは、落語の世界にも造詣が深くて、大学生のときに古今亭志ん生から煙管を頂いたという話をお聞きしてますけど……。

鈴木　私のは、親父の受け売りも相当入ってるし、親父に直接、寄席に連れて行ってもらった。うちには、落語に関する文献やいわゆるネタ本が、沢山とってありましたから……。しかし、落語も今は随分とやりづらいでしょうね。昔の噺をそのまま、オチまでも変えずに聴き手に解ってもらうというのは難しいと思いますね。落語の中でよく、江戸の頃のお話という云い方をするでしょう。でも、江戸時代というのは、何百年も続いたわけです。その間に生活環境や人の感覚が、かなり変わってきているはずですよ。そんな古い時代の情景は、今の人たちには判りにくいんじゃないですかね。

啓介　ある小説家が、「小説を書くということは、著者は半分しか書けないんだ」と云っている。「あとの半分は読者が書くんだ」と。落語でも、半分はたしかに演者が喋るけれども、半分は聴く側が作る、聴く側がキチンと聴くという姿勢も大事なように思いますね。

鈴木　そうですね。演じ手がどれほど勉強してやっているか、聴く方がどれほど一生懸命、聴く側に立っているか。ただ、おかしいちょっとしたくすぐりでパッと受けちゃったりする。受けるのは別に良いんですけど、そういう風なことだと演者もそれで良しとしちゃう。ということは、お互いにレベルを下げつつある。印刷業も同じで、業者とお客さま、それぞれが、本当に良いものを創っていこうという気概を持って当たっていくということが不可欠だと思いますよ。

啓介　闊郎さんのお仕事を拝見していると、趣味の良さや粋を解するということが、印刷業とは無縁じゃないような気がしてるんです。職業っていうのは、結局は人格の一部じゃないですか。そういう意味で云うと、趣味などの色々な要素が職業と深いところでマッチングしてんじゃないかという気がしますね。

鈴木　どうですかねぇ（笑）。でも、そういうところを目指したいですね。

啓介　あぁ、やっぱり闊郎さんに出会えたことによって、えくてびあんは二〇〇号まで来られたんだと思いますよ。

柴崎町	いなりずし・のり巻きずし	松月	柴崎町2-17-20 523-4758
	カレーショップ	砂時計	柴崎町2-18-10 525-2414
	ビューティーサロン	ウィスタリア	柴崎町2-21-15 527-1116
	ブックス	しんあい	柴崎町3-1-1 527-6701
		ロッテリア 立川南口店	柴崎町3-1-3 522-3928
	関西料理	紀の川	柴崎町3-4-3 525-5825
	とんかつ専門	かつ亀	柴崎町3-5-2 525-7647
	宝飾・時計・メガネ	ヨシダ	柴崎町3-5-4 522-2448
	紙匠	雅	柴崎町3-5-11 548-1388
	ｽﾍﾟｲ語・英・数・簿記	イスパニスタ	柴崎町3-6-3 522-2969
		サンカメラ	柴崎町3-7-22 522-3336
		あさひ銀行 立川支店	柴崎町3-10-1 522-4161
		松山堂薬局	柴崎町3-13-25 522-2550
		こむろ酒店	柴崎町3-14-3 522-2613
		矢沢歯科眼科	柴崎町3-16-2 525-6600
		ダイクマ 立川店	富士見町1-24-9 526-1161
富士見町	手作りケーキの店	ブティパニエ	富士見町1-31-19 529-8364
	株式会社	一如社	富士見町5-1-7 527-2211
砂川町		JA経済センター 立川店	砂川町2-44-3 536-1824
		JA東京みどり 立川支店	砂川町2-44-3 536-1821

えくてびあんの輪

人があって、街があります。
あなたがあって、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん！
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

今月は柴崎町・富士見町・砂川町・柏町・泉町・曙町の新店です。

柏町	沖縄料理・古酒	KINGS CROSS	柏町3-1-2 536-1774
	ベーカリー	リオンドール	柏町3-3-5 535-4892
	ピッツェリア	チャオ	柏町3-8-1 535-4882
	レストラン&BAR	WEST PORT	柏町4-64-3 536-4569
泉町	やきものギャラリー	陶庵	泉町935-1 528-7761
曙町	和菓子・甘味処	甘泉堂	曙町1-14-12 522-4305
	不動産	大晋商事	曙町1-23-9 525-3110
	蕎麦懐石	無庵	曙町1-28-5 524-0512
	ビストロ	シェ・タスケ	曙町1-28-14 527-5959
		三田花店 ルミネ立川店	曙町2-1-1-1F 527-5587
		ルミネ立川店 2F受付	曙町2-1-1-2F 527-1411
		オリオン書房 ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-2311
	印章	印徳 ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-1260
		朝日カルチャーセンター立川	曙町2-1-1-9F 527-6511
		東京赤十字血液センター	曙町2-1-1-9F 527-1140
	和生菓子製造直売	日の出屋 本店	曙町2-2-18 522-3308
		オリオン書房 第一デパート店	曙町2-2-25-3F 523-3311
		第一勧業銀行 立川支店	曙町2-4-5 522-5151
		富士銀行 立川支店	曙町2-4-6 524-3121
	お菓子の家	エミリーフローゲ 本店	曙町2-5-1-1F 527-1138

ロバと一緒に「くんぺいワールド」

玉川上水の林の脇にひと際目立つ建物がある。ここは、古楽の楽奏館「ロバハウス」。
松本雅隆さん（幸町6丁目）率いるロバの音楽座・カテリーナ古楽合奏団の活動拠点だ。
カテリーナ古楽合奏団は、その名が示す通り、現代の楽器の起源である中世・ルネサンス時代の多種多彩な復元古楽器を奏で操る合奏団で、百の音色を持つと云われている。
その調べは、実に素朴でぬくもり溢れ、何故か懐かしさが心に響く。
ロバハウスでは月に一度、さまざまなジャンルのアーティストとのジョイントで、ライブコンサートが催されている。
まだ寒さの残る一日、「くんぺい不思議ワールド」という題のもと、詩人、イラストレーターとして多くの人に愛された東 君平さん（1940-1986）の世界を、落語家の桂 文我さんと君平さんのお嬢さん、東 菜奈さんによる君平さんの遺された珠玉の童話、詩の朗読にロバの音楽座の演奏を添える形で実現、故人の偉業を讃えた。

●東 君平さん

作家、イラストレーター、詩人。1940年、神戸に生まれる。22歳のとき、「漫画読本」（文芸春秋）にてデビュー。絵本・童話など遺された著書は多数にのぼる。中でも、毎日新聞に週一回掲載されていた「おはようどうわ」、月刊「詩とメルヘン」の「くんぺい魔法ばなし」の連載は長期にわたり、数多の人々の愛読するところとなった。1986年、肺炎のため46歳の若さで急逝される。

松本雅隆 さん

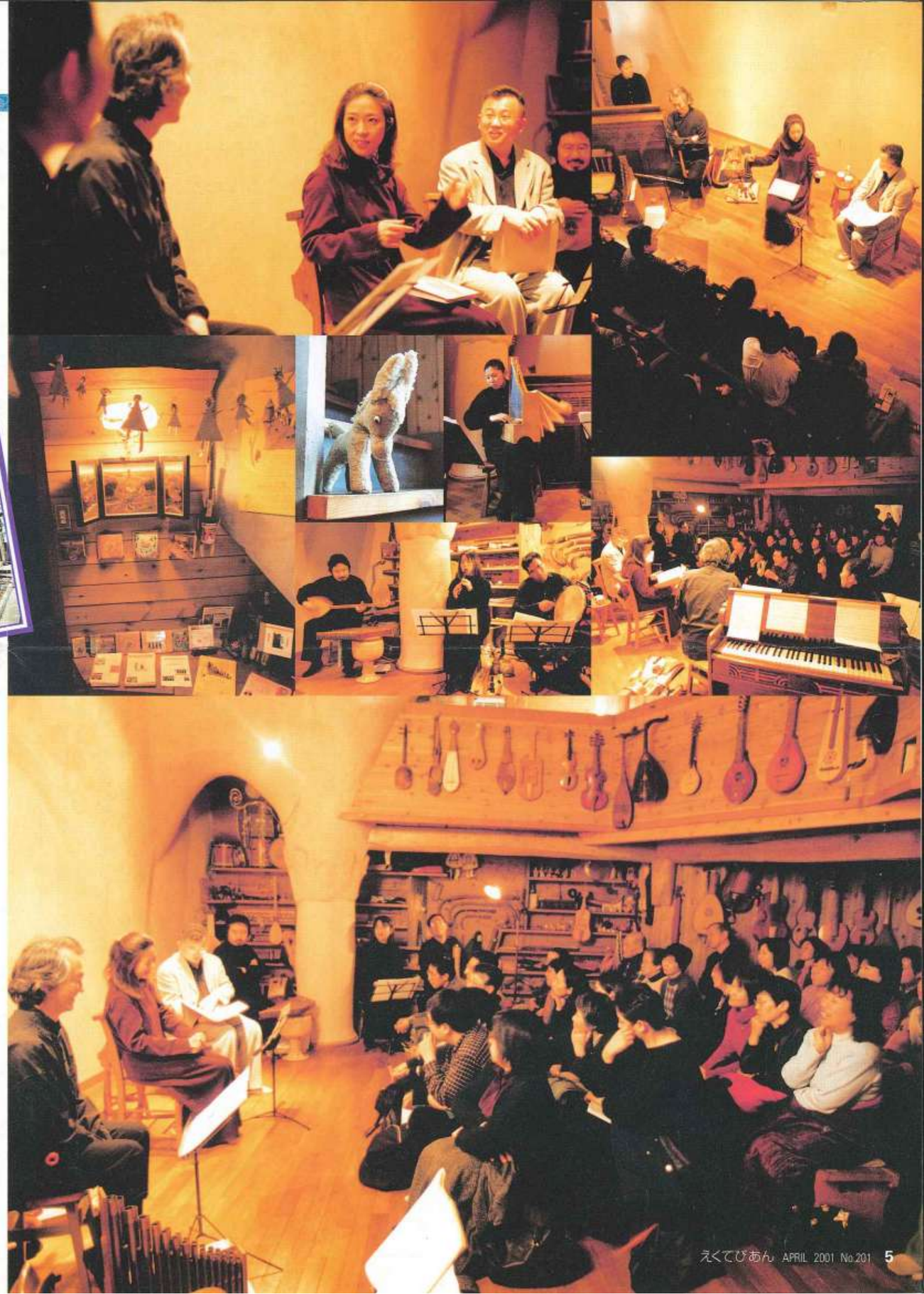
ロバハウス主宰、カテリーナ古楽合奏団・ロバの音楽座リーダー。古楽器や世界の楽器、空想楽器(オリジナル楽器)を駆使して、中世・ルネサンス時代の音楽を演奏するという独自のスタイルを確立。人に優しく心から楽しめる今一番新しい音楽をここ立川の地から発信し、子どもたちに音楽の夢を運んでいる。

東 菜奈 さん

父である東君平さんの薫陶を受け成長。日本大学芸術学部演劇学科卒業後、米ニューハンプシャー州のダートマス大学に留学。帰国後、通訳などの仕事を経て、現在、作家・イラストレーターとして活躍中。先頃、東君平生誕60周年を記念して父親の半生を描いた著書「風を待つ少年　東君平物語」（集英社）を出版した。

桂 文我 さん

三重県松阪市出身。昭和54年、桂枝雀に入門。桂雀司を名乗る。平成7年、四代目桂文我を襲名。全国各地で、「桂文我独演会」、「桂文我の会」、子どもにもわかり易い落語をまとめた「おやこ寄席」を開催。年間300回ほどの落語の高座を勤める傍ら、平成10年より、相愛大学人文学部の非常勤講師を勤めている。



表紙の人　森 忠明さん（曙町）

童話作家。昭和23年生まれ。作家を志して寺山修司に師事した。

物語のほとんどの舞台が立川という、まさに「立川人」を代表する作家。「びわの実学校」同人。

寡作だと思われがちだが『その日が来る』『少年時代の画集』『みねうちごっこ』『ぼくが弟だったとき』『こんなひとはめったにいない』『悪友ものがたり』『ホーン岬まで』など、著書多数にのぼる。

『へびいちごをめしあがれ』で新美南吉児童文学賞、『グリーン・アイズ』で第28回赤い鳥文学賞受賞。

（於・立川二中／撮影・細江英公）

東風

立川にも爛漫の春がやってきた。やはり、春はうれしい。先日、85歳のご高齢の方から「立春まではどうしても體が硬くなってしまう。こころも同様でストレスがたまるねえ」とおっしゃっていたが、若者も含めて死亡者は冬が多いし、こころなしか犯罪も多いように見える◆幸町の「ロバハウス」で東君平の詩と短篇の童話朗読会が催された。「君平」といっても、もう忘れてしまった人が多いのではなかろうか。東君平。その昔、絵本や詩、童話などでファンを愉しませてくれた作家である。毎日新聞の「おはようどうわ」など、あ、、そういえばと憶いだす方もいるであろう。1986年、肺炎のため亡くなっているから、もう14年も前の人である◆君平の作品を落語家である桂文我さん、君平のご長女である東葉奈さんが朗読。音楽は当然ながら松本雅隆さん率いる「ロバの音楽座」で『くんぺい不思議ワールド』のライブが開かれた。ロバの音楽座はお馴染みだから説明は省くとして、文我さんの力づよい朗読に拍手を贈りたい◆たかが「落語」かとお思いの方もいるかも知れないが、よくテレビでやっている「お笑い」とは段違いの藝で、修業も並大抵のものではない◆夜桜や　もののけ通る　えくてびあん

【第三次えくてびあん同人】
編　集　大久保清志 / 小林康史 / 杉山清純 / 芳賀敏博 / 山田五郎
デザイン　池田隆男 / AMNET DF
写　真　伊沢 巧 / 中村 伸 / 五来孝平

えくてびあん© 4月号
第19巻　通巻201号
平成13年4月1日発行
発　行　えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL. 042-528-0082　FAX. 042-528-0065
編集人　立井啓介
発行人　瀬尾勲三
印　刷　(株)大廣社

無断転載を禁じます。

Topics トピックス

草野忠正さんの叙勲祝賀会に700人

草野忠正さん（富士見町）がこの度、勲五等雙光旭日賞を受賞。

その記念祝賀会がさる2月17日、パレスホテル立川において催され、同氏ゆかりの「立川人」700名が集い、盛大な宴となった。発起人に立川商工会議所・岩崎泉さんら9名が名乗りをあげ実現に至ったもの。

草野さんは立川市商店街振興組合相談役理事、立川市富士見町まちづくり協議会会長、立川市勤労者福祉サービスセンター理事長、立川市環境美化実行委員会会長、協同組合立川給食センター理事長などの要職にあり、幅広く地域に貢献していることが今回の受賞につながった、76歳の壮健な姿が晴れ晴れしく映った一日であった。

・・・お知らせ・・・

三浦朱門氏が「アミューたちかわ」で講演

『箱庭』『武蔵野インディアン』などでおなじみの作家・三浦朱門氏が立川にやってくる。

三浦氏は作家であると同時に元文化庁長官であり、日本ユネスコ国内委員会会長、教育課程審議会会長など幅広い活躍で知られている。文化の香り豊かな立川にふさわしい講演会になりそうだ（無料）。

●日時場所：5月5日（祝）
14:00開場　14:30開演
アミューたちかわ・大ホール
●申込み先：えくてびあん「講演会」係
〒190-0012 立川市曙町2-17-5
杉田ビル3階
●応募方法：往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記の上、お申し込みください。
●締め切り：4月14日（土）消印有効
●問い合せ：えくてびあん「講演会」係
042-523-9898

真味百撰 ㊽

甘味処 石や

●柴崎町2-3-15 ●524-0862
●1100～19:00 ●第二、第四日曜日定休
●テーブル12席、カウンター5席 ●Pなし

自家製の寒天とつぶあん
手間暇かけた甘味が待っている

店主の浜中久江さんは、平成10年12月、柴崎中央公園の脇にある浜中石材店のショールームを改築して念願の甘味処をオープンさせた。店名の由来は至ってシンプル、石材店がお店を出すのだからと、単刀直入に「石や」と名付けた。甘いものは太ると思われがちだが、石やの甘味は、低カロリー食品である寒天や甘さを押さえたつぶあんを使っているので、心配はご無用。しかもこれらはすべて手間暇かけた自家製だという。特製のあんみつは、それぞれの具材が益子焼きの器の中に彩りよく配され、見た目にも華やかだ。甘味を扱うお店だけに、女性客の利用する割合が多いのだが、讃岐うどんや茶そば、おにぎりなどのメニューも用意されており、男性でも気軽に利用することができる。讃岐うどんは麺にコシがあり、本格的な味わいのある一品。夏季には、今ではとんと見かけなくなった手回し式のかき氷機が設置され、フワフワ、サクサクのかき氷がメニューに加わる。暑い夏にはうれしいサービスだ。親子二人で切り盛りしている、実に家庭的な薫りのするお店。3時のおやつ感覚でぶらりと立ち寄ってみてはいかがだろうか。

クリームあんみつ（写真）　650円。
田舎しるこ　500円。
けんちんうどん　700円。

ゴロさんの独断毒語 ㉑

背中

桜が咲き初める頃、私は憧れのK高校に入学いたしました。春爛漫とは、こんな日のことをいうのでしょう。今日からぼくも高校生だ。

せっかく入学祝いにいただいた本革の靴はすぐに放り出され、下駄になりました。話に聞く旧高等学校への憧憬でしょうか。腰に手拭をぶら下げて、胸を張って闊歩していたものです。級友とも仲良くなり、いい先生にも恵まれました。「いい先生」というのは、生徒に人気のある先生とか、教え方が上手だとかいうのと少しニュアンスが違うのですが、数学を教え、教頭をされていた小山清明先生のことは一生涯忘れないでしょう。六尺ゆたかな、という表現は先生のためにあるようなもので、まあ、大男でした。あだ名は「ジャイさん」。ジャイアントの略です。

校舎は木造の古いものでした。先生は放課後に校舎を一巡して、釘、トンカチ、鋸などを持って修理をしている、そんなうしろ姿を幾度も見かけました。「母校愛」という言葉はよく聞きますが、先生はK高校の出身ではありません。いわば教師としての「就職先」にすぎないのですが、誰よりも学校を愛しておられました。トンカチで板塀を叩いている先生のうしろ姿が、とても大きく感じられたものです。

私が二年生の時、運動会の運営にあたったことがあるのですが、前日の天気予報では当日は雨。私は「大雨、決行！」を叫び、怯む学友を励まして校内を歩きました。高校は東京の綾瀬にあったのですが、千住の方に「おばけ煙突」と呼ばれる名物がある。そこへ行って石炭殻をトラック二台分、分けてもらい運動場に敷いたら水を吸い込み、小雨であれば決行できるのではないか。これが私のモクロミでした。

毒三郎姿態Ⅶ

トラックが運動場に到着して雨をついて石炭を撒く。なんと、百人を越す生徒が集まってくれましたが、雨の中に長時間いたため、多くの生徒が寒さに震えて唇が青くなっているのもいる始末。もう限度と思われる頃、ようやく石炭を敷き終わりました。シャツもズボンもびっしょりです。

と、パン屋から大きな木箱が五つ届けられたのです。中にはまだ焼きたてのアンパンがぎっしりと詰まっておりました。「ひと息つく」とはこういう時のことをいうのでしょう。百人を越す高校生は、アツアツのアンパンをほおばってひと息ついたのです。アンパンの差し入れをしてくれたのはどなたでしょう。誰あろう、あの「ジャイさん」でした。もちろん、ポケットマネーです。

K高校はいわゆる「一流校」ではありません。今年「一流校」に入った皆さん。一流がなんだというのです。肝心なのはよき先生、よき友に恵まれることです、もしかすると、今からでも遅くない、「三流校」に転校した方がいいかも知れません。

（やまだこうう・詩人）

連載　四字熟語（39）

一瀉千里（いっしゃせんり）

急流は、あっという間に千里の距離を流れ下ることから、物事が一気に速くはかどること。転じて、文章や弁舌などが流れるようによどみのないことを意味する。瀉は、流れる、注ぐの意。出典は、中唐の文豪、唐八大家のひとり、韓愈の「貞女峽の詩」。

『常楽我浄』（じょうらくがじょう）放送時間
スカイパーフェクTV 216ch、マイ・テレビ 84ch
土　曜　午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送／火曜　午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十五年
真如苑
柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

ふれあい、さわやか
山梨中央銀行
＊立川支店＊
〒190-0011　立川市高松町2-16-13
TEL 042-526-1571

デジタルえほん
メモリーブックにどうぞ…
ミッキーやキティちゃんと一緒に…!!
あなたの写真と名前が絵本の中に入ります。
PLANNING・DESIGN・PROCESS・PRINTING
大廣社　☎042-527-1911
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
FAX.527-1949
E-mail JDI05215@nifty.ne.jp

第九便

モザイクアート作家
山根　章（砂川町）

EKUTEBIAN TACHIKAWA
アトリエだより 9
ATORIE-DAYORI

「首都圏コープ事業連合」外壁（岩槻市）

アート、と一口で云ってもいろいろあって、僕がやってるモザイク造型はまさに肉体労働、職人的要素が強い。朝早くから現場に入って日が暮れるまで、真冬の寒風吹きすさぶ中でも、夏の炎天下でも、小さなモザイクのかけらを手に格闘する毎日です。何やってんだと云いながらも、良いモノを創りたいという気持ちには勝てない。もう性みたいなもんですね。

絵画や彫像等とは違って僕の作品は「鑑賞」されるものではない。云ってみれば環境との調和が大前提。自然や場の空気感を損なわずに、そこに生きる、あるいは佇む人の気持ちを豊かにするものを創りたい。自分の仕事は、日常とアートを「つなぐ」役割なんじゃないかなと思っています。

この「つなぐ」という意識を持つ人間、そんなヤツが増えれば、この国の風景ももう少し変わっていくんじゃないかなと思うんですが。

AKIRA YAMA-21